

授業づくりを支援するWebページの改善・開発と活用 インターネット環境，LAN環境を活用した実践交流の在り方を求めて

小学校1年～6年：総合的な学習の時間・生活科・社会科・理科・特別活動・ふるさと教育

秋田市立川尻小学校 佐藤 好久，田口 隆

<http://www.edu.city.akita.akita.jp/~kws-s/>

キーワード 小学校，総合的な学習の時間，データベース，ふるさと教育

はじめに

「生きる力」をはぐくむことが、全国津々浦々の学校の課題となっている。当校は、平成8年度より一貫して「ふるさと教育」を基盤にすえて実践の在り方を工夫してきたが、ここから生まれた各種のデータをデータベース化し、これを活用しながら、一人一人の違い（興味関心・問題意識・既有体験・学習スタイル等）に応じた支援活動を工夫・改善している。これは、こうした取組こそが「生きる力」をはぐくむことになると考えているからである。

以下、「総合的な学習の時間」を中心として行ってきた取組の概要を紹介する。

1. 企画実施の目的

学校の地域環境を生かし、子供たち一人一人の違い（既有体験・興味関心・問題意識・学習スタイル等）に応じた適切な支援活動を可能とするため、LANやインターネットといったネットワーク環境を活用しながら、Web上で2に記載したデータベースを開発する。その後、その活用のあり方を工夫しながら授業や活動の改善を進める。

2. 実施内容と方法

Web上で(1)(2)のようなデータベースを改善・開発し、3～6年の「かしわっ子学習」(当校の「総合的な学習の時間」の呼称)、生活科、社会科、理科、及びクラブ活動等で活用しながら、一人一人のよさを生かす学習指導の在り方を工夫するとともに、データベース機能を評価しながら改善を進める。

なお、データベースの改善・開発は、Word, Excel, Access, 一太郎, ホームページビルダ - Ver6, Acrobat4.0J 等を用い、LAN環境を活用して行ってきた。

(1) 指導活動を支援するデータベースの改善・開発

(a) 指導活動支援データベース

年間指導計画，単元指導計画，単位時間展開案，及び，指導に用いる資料等を登録したり検索したりできるものである。なお，指導環境（樹木，花だん，栽培園，池等）に関する情報も取得できるようにしている。

(b) 「ふるさと先生」データベース

登録頂いている60名を越える「ふるさと先生」(地域の教育ボランティア)を，専門性や得意ごとに分類・整理し，保持している資料や映像，過去の実践事例等を登録・検索できるものである。

(c) 児童理解支援データベース

子供たちの学校における行動・活動の様子（委員会活動，クラブ活動等）等のデータベース化を進めている。なお，これは，(2)(a)ともリンクするようにしている。

(2) 学習活動を支援するデータベースの改善・開発

(a) 学習成果データベース

子供たちの学習活動から出てくる成果（調査活動のまとめ，観察・実験結果，造形作品等）を登録したり，他の学習場面で検索して活用したりできるものである。なお，学習活動で使用したURLのリンク集を子供たち自身が作成し，次の学習にも生かせるようにしてきた。（子供の手によるリンク集の作成）

(b) 学習素材データベース

川尻地区やその周辺の自然，歴史，文化，社会施設等に関するテキスト，静止画像，動画によるデータ，音声データ等々のデジタル化・データベース化を進めている。



図1 指導活動支援データベースの画面例

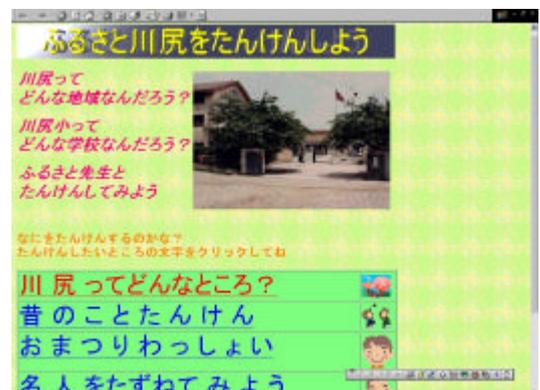


図2 「ふるさと先生」データベースの画面例

(3) (1), (2)を活用した授業や活動, 実践交流の在り方の改善・開発

子供やメディア, 学習過程等の特性を踏まえたWebページの改善を進めたり, 授業・活動実践, 実践交流のあり方を工夫したりするようにする。

3. 実施経緯

改善・開発したデータベースを授業や活動で使用しながら, その機能の改善や授業・活動の改善に努めてきた。

(1) 「指導活動を支援するデータベースの改善・開発」について

(a) 指導活動支援データベース

学習過程を構想したり, 学習支援資料を作成したりする際に活用した。時間を節約したり, 子供の様子を確認したりするのに効果的だった。また, ティーム構成員となる担任外教師や「ふるさと先生」等との打ち合わせも, このデータベースから必要な資料を取り出しながら具体的なイメージを持ちながら進めることができた。このため, 時間短縮も可能となってきた。

(b) 「ふるさと先生」データベース

「ふるさと先生」のお話や実演, その際に用いた資料等をデジタル化しデータベース化することで, 子供たちが「必要な時」に, 「必要な内容(話, 実演, 資料等)」を, 「必要とするメディア形態」で取得することができるようになり, 学習意欲が高まり追究(追求)活動も活発化してきた。

(c) 児童理解支援データベース

何か具体的な対応をしなくてはならない時等, 当該児童の行動や性格的な特性を具体的事実即して把握できるため, 対応策の決断に迷うことが少なくなってきた。

(2) 「学習活動を支援するデータベースの改善・開発」について

(a) 学習成果データベース

長期休業前に教師が指導に活用したり, 子供たちが教科学習やクラブ等の自由研究において, 追究方法を修正したり, まとめ方を考えたりする際に活用してきた。なお, 学習過程で活用してきたURLは, 解説を子供たち自身が作成しリンク集として残すようにしてきた。

(b) 学習素材データベース

データベースから求めるデータを取得したり, 不足のデータを自分たちで集めて登録したりするの活動等を通して, 川尻地区やその周辺の自然, 歴史, 文化, 社会施設等を見直すようになった。

(3) 「(1), (2)を活用した授業や活動, 実践交流の在り方の改善・開発」について

子供やメディア特性を踏まえた支援活動等, 視点を明確にしてWebページや授業の工夫・改善に努めてきた。

4. 企画実施に伴う成果と課題

(1) 「指導力及び指導資産」の向上という視点から(教師側から)

(a) 過去の実践例を具体的に吟味・検討できるため, 子供の実態や特性に即した学習活動の構想が可能となってきた。

また, 地域や学校の環境(自然, 人材, 施設等)を生かした活動, 子供の願い・特性に応ずる学習形態の工夫等, 活動展開の工夫が効果的に行われるようになってきた。

(b) 授業や活動を支援する際, 打ち合わせ時間の短縮等も可能となり, ティームティーティング(TT)による指導がより日常的に行われるようになってきた。

(c) ネットワーク時代の授業づくり, 学習環境づくりの在り方に関する知見及び指導力量が向上してきた。

(d) 今回のデータベース開発の経験を生かして, 「ふるさと教育」を基盤にした交流活動の在り方が見えてきた。

(2) 「子供の育ち」という視点から(子供側から)

(a) 必要な時や場面において, ほしい情報を必要なメディア形態で取得できるため, 比較したり推論したりといった活動が促進され, 主体的かつ個性的な追究活動が活発になってきた。

(b) 学習過程で獲得した新たな情報を適切なメディア形態でデータベース化し次なる活動に備えたり, これらを元に交流を図ったりしようとする意欲や態度, 能力が伸長してきた(コンピュータリテラシー, ネットワークリテラシーの向上)。

おわりに

改善・開発したデータベースを実際に活用することで, データベース機能や活用の仕方の改善点が明らかになってきた。今後さらに改善を進め, 子供にとって一層使いやすいデータベースに仕上げていくとともに, 教師にとっても, 授業づくりの頼もしい味方となるシステムとしての機能を高めていきたい。

なお, データベースを活用した授業や活動を元にした活動交流・実践交流に関しては一層の工夫・改善が必要である。今後, Web機能の改善と併せて授業・活動交流, 実践交流の在り方を工夫していきたい。